能登地震
共同支援センター 通信
No.14〔5月8日〕
能登半島地震 被災者共同支援センター
拡散希望
X @notosiensenta　〒925-0026 石川県羽咋市石野町ト 13-1
Mail: notosien@ymail.ne.jp 電話 0767-23-5107 Fax5108

小池書記局長一行が支援センターを訪問・激励

“『自立』強要は許されない”

復興遅々 行政無策

日本共産党の小池晃書記局長は5日、能登半島地震で被災した石川県輪島市と珠洲市を訪問し、日本共産党が呼びかけた救援募金を義援金として届けました。井上哲士参議院議員、藤野保史前衆議院議員（支援センター責任者）、佐藤正幸石川県議、鐙（あぶみ）史朗輪島市議が同行。訪問先のひとつ、共同支援センターでは、黒梅明事務局長、稲垣豊彦次長らが応対し、意見交換しました。

旧朝市通りで話し合う（左から）井上、鐙、小池、佐藤、藤野の各氏

小池氏らは、輪島市の漆塗り「大徹」の八井貴啓（やつい・たかひろ）さん(５４)の仮設工房を訪ねました。八井さんは全壊した工房から、道具類、塗り直しを依頼されていた祭り用の兜（かぶと）など取り出せるだけ取り出したといいます。「作業場がないと仕事ができないので助かりました」といいます。「いちばん困っているのは資金面」と話し、公費による支援を要望しました。

小池氏は、金沢市の金沢駅前で出張朝市を開催していた、輪島市朝市組合の冨水長毅（とみず・ながたけ）組合長に義援金を渡しました。冨水さんは「現在１９０人の組合員がいます。義援金はとてもありがたい」と語りました。「見ての通り、朝市で人気の魚はありません。漁港が隆起して漁に出られない。復興には長い時間がかかります。みなさんに忘れられないよう、また金沢市内で出張朝市をしたい」と話していました。

小池氏を見つけて駆け寄ってきたのは輪島朝市内で老舗和菓子店を営んでいた塚本民子さん(７３)。「全部焼けて何もなくなってしまった。ぜひ国会で輪島朝市の現状と復興をとりあげてほしい」と訴えました。輪島朝市通りは、がれきで埋めつくされていました。小池氏は「震災から４カ月がたっているのに、いまだに震災直後のような光景に驚き、行政の無策に怒りを覚える。このような状況を放置しながら、被災者に『自立』を強要するなど許されない。政府は被災者支援に全力を挙げるべきだ」と語りました。

これに先立ち支援センターでは、３月末の政府の支援物資打ち切りの影響や、「お渡し会」での食料ニーズなど、支援活動について懇談しました。

命ささえる 食料をセンターまでおよせください